

(ゴールドマスター) Goldmaster GMT 取り扱い説明書

ホワイト社製品について

WHITE 社の金属探知機は金や微細な金属の探知に非常に適しております。特にこの GMT は他社では類を見ない高性能な探知機に仕上がっております。金は特に高ミネラル分を含む場所で多く発見されてますのでグランドバランスを極端に切って使う場合と使用して使う場合の両方の機能を持っていなければなりません。この GMT はマイクロプロセッサの使用によって効率よく調整出来るように仕上がっております。

組み立て方法 (英文取り説3ページ)

2ページの図を参照の上で組み立ててください。室内での使用はいろいろな金属に多く反応しますので金属の少ない場所か室外での使用をお勧めします。

バッテリー (英文取り説4ページ)

- 1) 電池ケースは単三電池を8本収容する事が出来、約40時間の使用が可能です。
- 2) アルカリ電池ではない通常の電池や充電式電池は30時間から35時間程度の使用が目安です。
- 3) 電池が弱くなると探知機のブザー音が小さくなり直ぐに金属に反応し難くなります。その場合 Audio Boost トグルでバッテリー残量を確認できますので Battery テスト位置に下げて電池の残量を確認して下さい。
- 4) 電池を出す場合は2個の爪がついていますので、それをゆっくり外してケースを開けてください。

一般電池用のケース使用の場合

- 1) バッテリーケースの蓋(シールのついている方)に付いている小さな爪を少しだけ上にあげながら引っ張ってください。そうすると蓋が開きます。
- 2) 蓋が開いたら古い電池を外してください。

注意:間違えて電池を入れると重大な故障が起きます。その際はディーラーでの修理が必要となりますのでご注意ください。

- 3) 電池を入れる時は+と-を確認して入れてください。
- 4) シールがついている方を下にし、金属の接点がある方を電池入れにいれてください。

バッテリーチェック(英文取り説5ページ右)

Battery Test トグルを下側にすると液晶表示の棒グラフと音で電池残量を示します。電池が古くなると音が大きくなりませんし探知感度も鈍ります。またニッケル電池とアルカリ電池では違った状態を示しますのでご注意ください。電池が無いと“Low Bat 及び Bat OK”表示も出ません。棒グラフが左側に来た時は電池交換の時期です。この場合 “SORRY! LOW BATT”の表示が出ます。 充電式電池ではない電池を使う場合は使用状態に入ると直ぐに電圧が下がります。ヘッドフォンを使用すると電池の消費が抑える事が出来ますので是非お使い下さい。電池のもち具合は温度、使用状態によっても変化します。充電式ではない一般型の電池の場合は”dead battery”表示が出るまで使えます。もしも遠隔地で使う場合は補助(スペア)の電池を持参してください。

クイックスタート方法 (英文取り説6～7ページ)

*** この設定で GMT を使用する事が出来ます !**

- 1) Ground Balance Toggle を Fast Autotrac position “▼”にして下さい。

- 2) Audio Signal Boost を中央の OFF ポジョンにして下さい。
- 3) IRON I.D.Toggle (引き金部分のレバー) を中央位置にして下さい。
- 4) Variable SAT speed を3Xと4Xの間の“▼”にして下さい。
- 5) GAIN コントロールを時計回りにカチッと音がしてONになるまで回して下さい。
- 6) サーチコイルを空中に浮かしながら、Gain コントロールを時計回りにまわし7 & 8ポジションの間の“▼”に合わせてください。
- 7) 先ず THRESHOLD コントロールを一番反時計回りにまわし、ゆっくりと時計回りに回しながらハム音(プーという音)が少し聞こえるところまで動かして下さい。
- 8) 地面近くにサーチコイルを下げて2, 3回上げ下げして下さい。それにより Fast Auto Trac 機能が自動的に探知機の調整をします。
- 9) ここから探知が可能です。
- 10)もしも途切れ途切れの音がする場合は GAIN を少し下げてください。ハム音が上がったたり下がったりする音が聞こえますが、それは GMT が地面のミネラル分を調節しながら感知を始めているからです。もし”Bad Ground”表示が出たら GAIN ツマミを幾分下げてオーバーロードが無くなるように調節して下さい。

注意事項

もしもGMTを地面ではなく空中で金属を使いデモ等をする場合は GROUND BALANCE トグルを MANUAL にして下さい。くれぐれも FAST AUTOTRACにはしない様をお願いします。FAST AUTOTRACは常に地面を探知する場合にのみ使用して下さい。

各調整機能

Gain Control/Power Off (ゲインコントロールとパワーオフ)取説8ページ

Gain コントロールは地面からの信号強度を調整できます。殆どの人は金を出来るだけ深い所で探したいと思っているでしょう。しかしミネラル分が多い土地では目標の金がミネラル分に消されてしまう事があります。そのような場合に Gain コントロールを使いミネラル分に邪魔される事無く効果的に探す事が出来ます。

ミネラル分が高すぎて設定した Gain コントロールでは不十分な場合はオーディオ音がピーと言うのと同時に“**BAD GROUND-REDUCE GAIN**” (地質が悪いので Gain 設定を下げるように)と表示されます。その時は Gain をさげてオーバーロード表示が消えるように調節して下さい。また、大きな金属を浅い所で探知した場合は液晶に“**METAL CLOSE LIFT SERCH COIL**” (金属が近くにあるのでサーチコイルを上げるように)と表示されます。いずれの表示が出た場合でも調整すれば継続して探知作業が出来ます。

Gain Adjustment (Gain 調整)

- 1) Gain コントロールスイッチには探知機の ON と OFF スイッチもついています。OFF ポジョンから時計回りに回すと Gain を最低1から最高10まで無段階設定できます。(初期設定位置は7と8の間が最適です)ちなみにこの調整をする時には AUDIO SIGNAL BOOST トグルを OFF にして下さい。
- 2) 7~8の設定で十分に Gain が得られる場合、そしてミネラル分が少ない場合は10の方向に少し上げて大丈夫です。もちろん”BAD GROUND REDUCE GIN”が出る場合は Gain を下げるようにして下さい。

(取説9ページ)

- 3) Gain を上げる目的は本来オーバーロード表示である”BAD GROUND”を出さないでなるべく深いところにある目標を探す為です。
- 4) そして、気をつけて頂きたいのは Gain を上げる場合 THRESHOLD(ハム音)はスムーズでコンスタントな音で聞こえる調整が必要だと言う事です。途切れがちの信号、音などが聞こえる場合は Gain を上げすぎている場合に生じます。

- 5) VSAT(可変自動ハム音調整機能)は自動的にハム音を調整する機能ですが、後で説明が出てきます。
- 6) スムーズにサーチコイルを動かせる環境の場合はスムーズなハム音を保てれば目盛を“10”まで上げて大丈夫でしょう。もしも”BAD GROUND REDUCE GAIN”が表示される場合、そしてノイズが聞こえる場合はGAINの目盛を下げるようにして下さい。
- 7) IRON IDは探知機がスムーズに操作されている時 更に探知機の精度を増す為の機能です。Gainを上げすぎた場合、鉄分と非鉄分の区別が出来なくなりますので注意下さい。

サーチコイルをユックリそしてスムーズに動かす事がスムーズなハム音 (THRESHOLD)を得る秘訣です。このスムーズな動きがこの探知の機能を引き出す秘訣でもあります。

Audio Signal Boost Toggle (オーディオシグナルブーストグル) 取説10ページ

Audio Signal Boost Toggle スイッチは小さくて深く埋まっている金属の反応を聞こえ易くする機能です。音を増幅させる機能なのでオーバーロードの原因にはなりません。この機能を上げる事によって見つけにくいところにある小さな金を探すことが出来ます。

中央位置は NO AUDIO SIGNAL BOOST で音の増幅無しでそのまま聞こえます。

上の位置は AUDIO SIGNAL BOOST で通常の4倍の音で聞こえます。

下の位置は BATTERY CHECK で電池の残量確認です。

この機能は通常使用しなくても良いでしょう。必要な時のみ使用下さい。この機能を使う時は THRESHOLD も同時に調整して下さい。

Variable SAT Speed Control (自動ハム音調整機能) 取説11ページ

この機能は地中にミネラル分がある場所でサーチコイルが目標を捕らえた時のハム音を調整する機能です。ミネラル分の変化がハム音を変化(上がったたり下がったり)させる原因です。

ユックリそして広くサーチコイルを動かす事がこの探知機を効果的に機能させる事になります。

VSAT Adjustment (自動ハム音調整機能の操作)

初期設定値として3x と4x の間に書いてある“▼”位置で約80%の地質を調べる事が出来るでしょう。もしも始めてミネラル分が多い地質に当たった場合、そして磁石分などが多い場所で使う場合はこのVSAT 機能を上げて使用してください。これによりスムーズなハム音が聞こえるはずですが、一つ気をつけていただきたいのは、VSAT を上げると探知深度は浅くなるという事です。もしもミネラル分による反応音が多く聞こえる場合 VSAT を上げて操作した方が良い結果が生まれるでしょう。Gain の調整の部分でも説明しましたが Gain を下げると探知深度が浅くなりますので適度な設定が必要です。一番良いのは VSAT が地面のミネラル分からの影響を抑えられる最大値に設定し、Gain 調整はスムーズな反応音が出て最大深度で使用する事がポイントとなります。GAINとVSATはいわゆる塩と胡椒のような関係です。ちょうど2つのバランスを上手にとり美味しいスープを作るようにバランスをとってください。

Iron I.D.Trigger Adjustment (IDトリガー) 取説12ページ

* トリガーは握ったときに人差し指の前にある小さなレバーです。

1. トリガー(中立位置)

金属を探知した場合途切れる音で反応します。

2. トリガー(前の位置)

この位置での使用は、目標金属の上を通過すると通常の途切れ途切れ音の後に“ブー”と言うような音が聞こえます。これは液晶の Iron 表示で85%から95%表示を超えた辺りから鳴ります。トリガーをこの前位置にしても何も他の機能に影響はありませんし、探知深度にも影響がありません。

3. トリガー(指で引いた位置)

引いた位置では”Target Analysis”目標物識別機能が機能し、探知機能はストップします。

この機能はあくまで鉄製の目標物を試験的に探知する場合に使われます。大事な事は目標物の上でユックリとしたスピードで探知するという事です。地面より4cmから5cm位の高さで探知してください。

注意: Visual Iron ID system (液晶表示による鉄分表示システム)

この機能はトリガーがどの位置にあっても独立して機能しています。

Iron I.D.に関して(12ページ左下)

1. ある特定の地質にこの機能は向いていません。もしどの金属にも反応するような場合は先ず総て掘って目で確認してください。
2. 実際の金を使ってこの機能がどのように作動するかをテストして下さい。
3. この探知機(GMT)のこの機能のみが探知深度を妨げる事無く金を効率良く探知します。
4. 穴のあいたワッシャー類はたまに反応しないこと(反応しにくい)がありますので、その際は掘って確認して下さい。
5. 鉄分やミネラル分の多い石の近くに埋まっている金は、たまに“ブー”と言うような音がします。
6. トリガーを引いた状態でミネラル分の多い石の上を探知すると、2回つづけて探知音がする時があります。しかしユックリとまた同じ場所を探ると音は消えてしまう事があります。この場合はミネラル分と判断してください。

Threshold Control (スレシヨールドコントロール) 取説13ページ

これはハム音調節をする為の機能です。このハム音はいつも探知状態の時には聞こえていなければなりません。小さくて深い場所にある金を探す場合はハム音を最低の聞こえるレベルまで下げるのが良いでしょう。静かな場所です小さな金などを探す場合は音のレベルを本当に小さく、そして聞こえるか聞こえない位に設定するのが良いでしょう。ヘッドフォンの使用を強く勧めます。これを使う事によりハム音を下げ使用できますし、周りの音に邪魔されず探知に集中できます。

Threshold Adjustment (スレシヨールドアジャストメント) ハム音の調整

この探知機はマイクロプロセッサで THRESHOLD を調整しておりツマミを1回転させることで調整をする事が出来ます。10段階で無段階調整できますので正確に素早く設定が可能です。設定の仕方は先ず、反時計周り(左)にツマミを回してそのあとユックリ右に回しながらハム音が聞こえる所まで回してください。若しもハム音が切れてしまう場合はサーチコイルを動かすのが早すぎるか、Gain の設定が高すぎるかが考えられますので、その場合は調整してください。

Ground Balance Fast Auto Trac (グランドバランスファストオートトラック) 取説14ページ

通常、金はミネラル分の多い地質で見つかります。そのような地質で効率良く発見する機能が FAST AUTOTRAC 機能です。先ず、GROUND BALANCE トグルスイッチを上にあげて下さい。その時に初期設定モードの77(フェライト)表示が液晶に表示されます。その表示がミネラルの種類です。数字が大きければ大きいほどミネラル分(鉄分、磁石分)が多く、小さければ小さいほど適正(ミネラルが少ない探しやすい)な地質分だということです。このようにして GROUND BALANCE は自動的にミネラル分を探知します。液晶によるミネラル分表示は1から99までです。液晶表示の右上に出る数字は量を示します。

GROUND BALANCE が持っているもう一つの機能は GRAB PAD です。MANUAL でも FAST TRAC モードでも GRAB PAD を押してサーチコイルを1回だけ上げ下げすればリセットする事が出来ます。これをする事によりミネラル分の多い場所でも直ぐに探知作業に入る事が出来ます。GRAB PAD によってグランドバランスを手動で調整する事が出来ます。

“Manual” Ground Balance (マニュアルグランドバランス) 取説15ページ

地質に含まれるミネラル分が均一な場所で小さな金を探す場合は GROUND BALANCE 機能の使用が適しているかも知れません。経験のある人たちは GROUND BALANCE をマニュアルで調節しながらサーチコイルを上げ下げする事により聞こえてくる音を微妙に判断します。この新型の GMT はデジタル式のマイクロプロセッサの使用により4000:1よりもっと高いレベルで GROUND BALANCE を調整できます。+と-をパッドで調節すると全体の4000分の1ずつ調整が可能です。一度に多くの数値を移動させたい場合はパッドを押し続けて下さい。

Ground Balance Adjustment (グランドバランス アジャストメント)グランドバランスの調整

GMT のスイッチを入れると左上に77と表示されます。(フェライトサンプルを感知した時に同様な表示がされます) GMT の GROUND BALANCE をマニュアルで設定する場合は左上にある GROUND BALANCE トグルを MANUAL にしてこれから感知する地面のから5cm~12cm位上でコイルを上げ下げして下さい。もしも THRESHOLD ハム音が消える場合はタッチパッドの+表示を押し数字が下がり始めて音が上がらなくなるところまで持って行ってください。もしもサーチコイルが地面に近づいた時に音が小さくなる場合は+を押し調整してください。逆に音が大きくなる場合は逆に-を押し調整してください。サーチコイルを上げ下げしても音が変わらないのがベストの調整です。ミネラル分が多い場所でコイルを下げた時に音が若干あがるのが多くの探知家に好まれる設定です。

Searching (サーチング) 探知

このサーチコイルは広範囲を感知できる機能があります。金属に反応して音が鳴った場合、金が埋まっているであろう場所の上で文字の“X”を書くようにします。殆どの金は小さいので硬貨や金属の遺物と違ってハッキリと場所を確定するのが難しいかもしれません。まずは音がなった場所の土を少しずつ取り去ってください。16ページの図に書いてあるように左右にサーチコイルを振って探知場所を特定したら、次は90度角度を変えてサーチコイルを同じように振り、埋設場所を特定してください。探知の仕方は何回も小さな鉛や金などを使ってマスターするまで練習してください。

Headphone (ヘッドフォン)

ヘッドフォンジャックはコントロールボックスの前についています。殆どの探知家はステレオ式ヘッドフォーンを好むようです。もしもヘッドフォーンを使うときはボリュームスイッチがついているものを購入してください。ヘッドフォーンでは外部の音に邪魔されずに最適な音で探知をする事が出来ます。60オームかそれよりもっと高い抵抗値のものが小さな目標を探すのには向いています。

Overload message (オーバーロード表示)

下のメッセージが表示された時の対処方

BAD GROUND REDUCE GAIN (意味:地質が悪いので GAIN を下げるように)

対処方法:すぐに GAIN を下げてください。

METAL TOO CLOSE LIFT SERCH COIL (意味:金属が近すぎるのでコイルを上げる様に)

対処方法:この表示が出たら、金属が近すぎるのでコイルを地面から上げてください。

上記の表示は一時的に出ますので場所を移動すれば直ぐに消えます。しかし継続して表示される場合は直ぐに GAIN を下げてください。継続してこの状況で使用すると故障の原因になります！

探知機の掃除および探知機のしまい方

1. 掃除

- コイルとロッド(棒)は防水なので水や中性石鹼で洗っても大丈夫です。しかしコントロールボックスは防水ではありませんので常に乾燥した状態にしておいてください。
- 水辺などで使った場合はコイルをコントロールボックスより高くすると水がロッドからコントロールボックスに流れ込みますのでコイルはボックスより上に上げないで下さい。
- コントロールボックスが汚れたら、乾いた布で拭いてください。

2. 気候

- 冬や夏場などは特に温度が極端に変化する自動車のトランクに入れっぱなしにしないで下さい。
- 直射日光にも当てないで下さい。
- コントロールボックスには雨が入らないようにして下さい。

3. しまい方

- 使わないときスイッチはOFFにして下さい。
- 長い間使わない場合は電池を電池入れから外してください。(電池の入っているケースも外してください)

注意: 殆どの探知機の破損が日常の使用で生ずるのではなく、しまっておく時に倒したり踏んだりして破損しています。

4. 注意事項

- 探知機を落とさないようにして下さい。(ショックを与えないようにして下さい)
- 探知作業から体を起こす時、杖のかわりに体重をかけないで下さい。
- 潤滑剤やWD-40を探知機にかけないで下さい。
- 改造しないで下さい。

保証: 購入より1年間の間にメーカーの材質や製造行程が原因となり故障が生じた場合は無料で修理します。但し、お客様の使用が原因となって故障が生じた場合はこの限りではありませんのでご理解下さい。